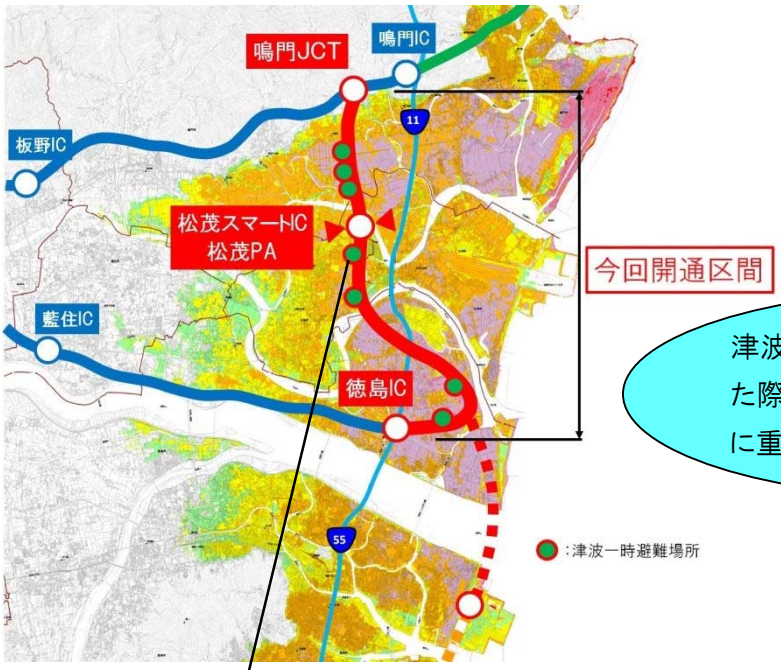
別紙2

鳴門JCT～徳島IC間の整備効果②

今後発生が予想される南海トラフ地震による津波発生時において、緊急輸送路として機能を担うことで、安定した通行の確保が期待されます。

沿線自治体と連携し、高速道路と一体となった津波一時避難場所を整備することで、地域の防災力向上を図っています。（開通区間に7箇所設置）

■徳島県東部の津波浸水予測範囲



浸水深(m)

10.0 ～
5.0 ～ 10.0
4.0 ～ 5.0
3.0 ～ 4.0
2.0 ～ 3.0
1.0 ～ 2.0
0.3 ～ 1.0
0.01 ～ 0.3

津波により一般道が道路機能を失った際、高速道路は避難や物資輸送に重要な役割を果たします。

出典：徳島県「徳島県津波浸水想定の公表について（平成 24 年 10 月 31 日公表）

津波一時避難場所の一例（北島町太郎八須地区）

※開通区間では、震度6弱で最大津波浸水深3m～4mに達すると予測されており、この場合でも、高速道路の道路機能は確保される。

津波、洪水による浸水被害や液状化による市内幹線道路の寸断などによって、被害の拡大や地域の孤立などが危惧される。

当区間は、大地震による津波襲来の際の防波堤機能や避難場所としての機能を有し、関西圏や四国各地から徳島市中心部に直結する緊急輸送路としての機能を併せ持つ「命の道」である。

～徳島市「早期整備要望書」より～